調査研究等事業報告書
（会派用）

受付
受付 第　号 28.8.15 岩手県一関市議会

一関市議会議長　千　葉　大　作　様

報告年月日	平成28年8月15日
実施日（期間）	平成28年7月12日～平成28年7月15日
実施場所（行先等）	石川県加賀市・福井県勝山市・京都府宮津市・鳥取県境港市
事業区分（いずれかに○）	○研　修　調査研究　要望・陳情活動　会　議
事業内容	○ 石川県加賀市「子育て支援策について」 ○ 福井県勝山市「わがまち魅力発酵事業について」 ○ 京都府宮津市「健康づくり運動推進事業について」 ○ 鳥取県境港市「いのちとこころのプロジェクトについて」
報告者	（会派名）　関新会　（代表者）　槻　山　隆　[redacted]
参加者	議　員　槻　山　隆　[redacted]　議　員　岩　淵　一　司　[redacted] 議　員　橋　本　周　一　[redacted]　議　員　佐々木　賢　治　[redacted] 議　員　㊞　議　員　㊞
報告要旨	1．目　的・・・・・・・・・・・・別紙（1） 2．概　要・・・・・・・・・・・・別紙（2） 3．参考とすべき事項・所感・・・別紙（3）
主要資料名	

石川県加賀市　　子育て支援施策について

１．視察目的

近年我が国では出生数の減少や出生率の低下に伴い、急激な少子高齢化が進んでいる。平成17年には合計特殊出生率は1.26となり、過去最低となりました。平成25年には1.43となったものの、少子化は進んでいる。

子育てをしやすい社会環境を整え、幼児期の保育や教育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進するため、「子ども子育て関連３法」が平成24年に成立し、①質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供②保育の量的拡大・確保及び教育・保育の質的拡大③地域の子ども・子育て支援の充実を目指しているが、少子化に歯止めがかかっていない。そこで、次世代の育成支援を総合的に推進していくことが求められており、本市の子育て支援について視察する。

２．視察先概要

別紙

３．参考となる事項・所感

近年我が国では出生数の減少や出生率の低下に伴い、急速な少子高齢化が進んでいる。平成17年の合計特殊出生率は1.26となり過去最低となる　が微増に転じ、平成25年には1.43と改善されたが、依然として深刻な少子化が進んでいる。国では次世代を担う子どもが健やかに生まれ育む社会の形成、少子化や核家族化の進行に対処するために次世代育成支援対策支援法が制定され、さらに子育てをしやすい社会環境を整え、幼児期の保育や教育、地域の子ども子育て支援を総合的に推進するため、子ども子育て関連３法を成立させました。本市においても地域住民と一体となって、関係機関との連携のもと子育てに喜びを感じ、家族の絆と地域で支え合えるまちづくりを目標として子育てを支援していく体制作りを進めている。地域における支援や子育て相談、さらには児童の健全育成対策に向けた施策の積極的な展開が必要である。

福井県勝山市「わがまち魅力発酵事業」

1. 日　時：平成２８年7月１３日１０：００～１１：３０

2. 目　的

調査事項：「わがまち魅力発酵事業」について

まちづくり・地域活性化・地域発信は現代に於いてまちづくりを目ざす全国の各地域の共通の課題ではないだろうか。当市も合併から１０年が経ち、市民による地域協働体が組織されまちづくりがいよいよスタートする。勝山市のまちづくりは地域全体を博物館にと協議会を組織しエコミュージアムからジオパークへと結びつけた事例を学ぶことである。

3. 視察先の概要

人口２万４千人を擁する奥越の中核都市福井県勝山市。町に入ると大きな恐竜と平泉寺を背景女優吉永小百合のポスターが出迎えてくれた。「恐竜化石発掘日本一」のまちであり、また平泉寺は奥州平泉とゆかりがあり、身近に感じられた。市街地は九頭竜川の流れに沿って形成され、繊維産業を基幹産業とし農林業が盛んである。またリオ五輪へバドミントンの山口茜選手を輩出しており、庁舎に大きな垂幕があり応援の約束をして来た。当市の体育協会のキャッチフレーズは「一関からオリンピック選手を」である。

4. 参考とすべき事項・所感

この事業推進にあたってエコミュージアムの基本理念として遺産の発掘と保存活用など４項目のもと、市民の自主的な活動への支援を通し、このまちを人間性への回帰に対応した「選択されるふるさと」を目ざし、いつまでも住み続けたいまちの実現を目指すものである。そのためにエコミュージアム協議会を結成。

そしてエコミュージアム推進のため「わがまち事業」を継続している。

①わがまちげんき発掘事業（Ｈ１４～１６）３０事業　26,508 千円
②わがまちげんき創造事業（Ｈ１７～１９）５３事業　22,125 千円
③わがまちげんき発展事業（Ｈ２０～２２）５９事業　18,289 千円
④わがまちげんき魅力醸成事業（Ｈ２３～２５）９８事業　21,202 千円
⑤わがまちげんき魅力発酵事業（Ｈ２６～２８）９０事業　21,019 千円

この事業の推進してきたことで２００９年１０月勝山市全域が「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパーク（３９ヶ所）に認定された。これは市民自らが地域の歴史・文化遺産、自然遺産、産業遺産等地域の遺産を再発見して保存するとともに、市民が主体的に次世代に継承する運動を通じて、活力・特色ある地域づくりをすることである。当市にあっても地域協働体がスタートしておりこの勝山市の取り組みが必要であると再確認をした。またこの「わがまちげんき事業」に小中学校も参加していることは特にも参考になった。

5.　添付書類

（1）勝山市エコミュージアム推進事業

京都府宮津市「健康づくり運動推進事業」

1. 日　時：平成２８年7月１４日９：００～１０：３０

2. 目　的

調査事項：「健康づくり運動推進事業」について

少子高齢化時代。地方消滅などと将来の不安が募るは全国的なことである。当市も１７年の合併以来人口減少が続く。老年人口比率も３０％超である。「健康長寿」は皆の願いである。市も様々な事業展開により健康推進に努めているところである。今回は「歩くこと」を軸に健康づくり運動をすすめている宮津市に学ぶものである。

3. 視察先の概要

まずは、「ようこそ宮津市へ」の手作りの席札のおもてなしに感動した。

ここは、人口１万８千人を擁し、京都府北部に位置し、日本百景の「天橋立」のまち、そして丹後地方の産業・交通・文化の中心で、観光客が年間２７０万人が訪れる観光都市、宮津市である。

4. 参考とすべき事項・所感

この健康づくり運動事業の背景は高齢化率・医療費・要介護認定率が高い状況にあることだ。目標に「健康寿命の延伸」・「健康受診率の向上」・「要介護認定率の上昇に歯止め」を掲げている。取り組みの主なものとして最も身近な運動の「歩く事」を軸に「インターバル速歩」の導入である。運動推進母体は１４の地区単位でリーダーを配し組織化を図り、注目すべきは健康づくり可視化のため「活動計量」の活用で歩数や消費カロリー・身体活動量など測定。この活動計量は貸与で７００名が利用している。このデータを記録し本人に示し個別に健康づくりの指導・助言を実施。このように市は健康広場運営費用支援やリーダーの研修など側面的支援を行っている。

課題としては事業イベントのマンネリ化、リーダー確保、参加者の固定化などがあるとのこと。

高齢者向けニュースポーツや健康教室など色々と盛んであるが基本の、そして身近な「歩くこと」に着目し、データ化し個別の健康管理に結びつけている。数値化は各々のモチベーション向上にもつながり日々の健康づくりや運動習慣化につながると思う。

5. 添付書類

（１）宮津市の健康づくり運動推進事業

○鳥取県境港市

１．視察の目的

「いのちとこころのプロジェクトについて」どのような取り組みを行っているのか内容について研修する。

２．視察先概要

鳥取県北西端の弓ヶ浜半島北部に位置し、東に美保湾、西に中海に面し、三方が海に開けた条件を活かした産業基盤の整備が進んでいる。弓ヶ浜半島は、長さ20㎞の砂州となっており、黒松が海沿いに生えている。この黒松は、松食い虫の被害も見られず意外な感じがした。

豊富な水産資源に恵まれH4～5年には、漁獲水揚げ量日本一となった。

岩壁の整備も進み、国際コンテナターミナルの供用開始や、環日本海定期貨客船が就航し、日本海側拠点港に指定・選定され、H25年に「みなとオアシス境港」に登録され利用も増加している。境港市出身の水木しげる氏の「水木しげるロード」がオープンし、オブジェ153体を配置した道への観光客数が累計で2,500万人を超え、有数の観光地として「さかなと鬼太郎のまち境港」を全国に情報発信している。

３．参考とすべき事項・所感

境港市では、１年間で平均10名程度が自死しており、減少しない事に危機感を抱き対策を考える必要に迫られた。65歳未満の死亡原因の中で自死が２位となっていた。調査の結果自死につながるうつ病も増えている。平成21年度より、地域自殺対策緊急強化事業として、各団体をまわり啓発活動を実施し、いろいろな相談を受ける機会が

広がり、関係機関が関心を寄せるようになった。

こころの相談を受ける中で多くの人が子どもの頃の体験談を話し、子どもの頃のつらい体験が影響している事がわかり、生育歴や体験談を聞かせてもらうこととなった。

その結果、子どもの時の問題が大人になってからの生きづらさにつながっている。

自死予防・思春期に着目した取り組みとして生きづらさのある子どもを減らそうと自死対策緊急強化事業として市内小学校６年生を対象に「こころとからだの健康アンケート」を実施し、思春期の実態を把握することとした。アンケートで「子どもが自分の思いを表出できることが大切」「子どもの話を聞いてくれる人、相談に乗ってくれる人、ほめてくれる人がいてくれることが大切」という結果がでた。対策として赤ちゃん登校日を設けて赤ちゃんとのふれあいを体験する。小学生へのアンケートも実施し、その結果を中学校へ届け、今後の対応に役立てるようにする。こころの応援団を広げる会を作り活動して行く。などの取り組みを実施して行くことで自死者の減少に結びつけて行くこととしている。

・資料添付